

平成 27 年度  
社会福祉法人さざんか会  
事業報告(統一版)

事業所名〔けいよう〕

## 1. 平成27年度事業活動重点事項及び成果

### (1) 職員体制について

年度途中である7月から管理者が代わり、利用者さんや職員には不安な思いをさせてしまった事を申し訳なく思っています。しかし、そのような中でも利用者さんに大きな事故や怪我がなかった事は職員が一丸となり、利用者さんを支えてくれたお陰と感謝しています。また、その後も職員の異動や退職等もあり年間を通じて満足できる職員配置ができなかったことは残念でした。そのため年度当初に計画していた行事もできなくなってしまったものもあり、利用者さんやご家族の皆様にご迷惑をかけてしまう結果となってしまいました。ご家族からもご指摘をいただき大変申し訳なく思っております。

求人については、ハローワーク、ホームページ等で募集をかけても集まらないため、地域の方にお願ひできればと思い、二和商店街に職員募集の広告を貼らせていただきました。しかし残念な事に効果は得られず、働く人を集める事の難しさを痛感しました。今後も求人の方法は法人としての課題となります。若い職員の声も聴きながら色々な媒体を使い、募集をかけて行く必要があります。

### (2) 高齢化への対応について

利用者さんの高齢化は年々顕著に表れ、個別対応も増えてきています。ちょっとした配慮不足から事故や怪我に繋がってしまう事は否めません。そのため、事故や怪我がないように重々配慮していることは言うまでもありませんが、起こってしまったときには、今後同じ失敗を繰り返さないよう、未然に防げるよう事故報告書及びヒヤリハット報告書を基に情報を共有する事を心がけています。

また、毎月理学療法士に来ていただき、指示を仰ぎながら日々の活動の中でもストレッチ等を行い、機能維持に努めています。

### (3) 地域とのつながり

今までと同様に、地域とのつながりを大切にしてきました。地区社協の会合には可能な限り出席させていただき、顔の見える関係作りを心がけてきました。ふたわ福祉まつりでは、フラダンスの発表の場をいただき、利用者さんの励みになっています。秋祭りに関しても、会合の際にご案内させていただき、昨年度も事務局長さんが来賓として来てくださいました。近隣の方々には案内状をお配りしています。毎年楽しみにしてくださる方もいて喜ばしい限りです。

また、2軒となりの船橋市身体障害者施設「太陽」さんとの交流を図ろうと考えご挨拶に伺いました。太陽さんも快く承諾して下さいましたが、日々の慌ただしさからまだ実行するまでに至っていません。今後職員間で細やかな事を検討し、早い時期に交流の場を設けたいと思っています。

### (4) 人材の育成

人手不足というのも大きな課題となりますが、働きやすい職場を作り、定着率を

上げることも大きな課題となっています。

研修には積極的に参加するようにし、個々のスキルを上げる事、それだけではなく職員会議の日に研修報告をし、参加していない職員にも伝える事で、職場全体のスキルアップを目指してきました。報告する職員にも伝えたい事を時間内に完結にまとめて発表しなければいけないので良い機会となります。また、報告するだけではなく、3～4人でグループワークをして職員間のコミュニケーションを図りながら、自分の想いをきちんと伝える事、人の想いをきちんと聞く事も行ってきました。支援する中で何か困った事が起きた時に一人で抱え込む事なく、相談できる、相談しやすい環境を整える事が必要になってきます。これだけでは定着率をあげる事はできませんが、そのうちの一つになればと思い、今後も大切にしていきます。

#### (5) 実習生等の積極的な受け入れ

教員免許取得に係わる介護等体験の実習は27年度は25人を受け入れました。その他にも保育士資格取得のための実習、27年度の秋からは介護職員初任者研修に伴う実習を受け入れました。現場としては、大変な面もありますが、福祉の現場を実際に見ていただき興味を持っていただく事で、就職に繋がればと効果を期待しているところでもあります。

## 2. 職員体制と人材確保(常勤換算数)\*小数点2位四捨五入

	管理者	サビ管等	支援員・世話人・保育士等	看護師	調理員・栄養士	その他(運転士等)	計
27年度当初	1	1	16	1	4	1	24
男子	1		7 (2.4)	( )	( )	1 (0.5)	( )
女子		1	9 (2.1)	1(0.1)	4 (2.3)	1 ( )	( )
計	1	1	16 (4.5)	1 (0.1)	4 (2.3)	1 (1.5)	24 (19.7)
年度中増減			1増4減				
男子			7 (2.4)	( )	( )	( )	( )
女子			6 (1.7)	( )	( )	( )	( )
計			13				
28年度当初	1	1	14 (3.1)	1 (0.1)	4 (2.3)	6 (2.4)	27 (7.9)

\*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を( )内に別記する。

### 3. 施設等利用者の状況

#### (1) 利用契約者

利用事業名	生活介護	就労継続 B	児童発達支援		計
定 員	40				40
27 年度当初契約者数	45				45
年度内新規契約者数	1				1
年度内解約者数	0				0
年度末契約者数	46				46

#### (2) 利用率

利用事業名	生活介護	就労継続 B	児童発達支援		計
年間延契約者数	11479				11479
年間開所日数	250				250
年間延利用者数	9645				9645
利用率	84%				84%

#### (3) 利用者の年齢区分(平成 28 年 4 月 1 日時点)

年齢区分	～ 20	21～30	31～40	41～50	51～	計
男 子	2	8	5	12	2	29
女 子	0	4	4	7	2	17
計	2	12	9	19	4	46
構成比率	4.3%	26%	19.5%	41.3%	8.6%	100%

#### (4) 利用者の障害程度(支援)区分(平成 28 年 4 月 1 日時点)

区分	2	3	4	5	6	計
男 子	0	2	8	13	6	29
女 子	0	2	6	4	5	17
計	0	4	14	17	11	46
構成比率	0%	8.6%	30.4%	37%	24%	100%

#### (5) 援護市町村区分

市町村区分	船橋市	鎌ヶ谷市	その他		計
			県内	県外	
男 子	27	1	0	1	29
女 子	17		0	0	17
計	44	1	0	1	46
構成比率	95.6%	2.2%	0%	2.2%	100%

#### 4. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	18		7	4				29
女子利用者	9	1	6	1				17
計	27		13	5				46
平均年齢	65.2	69.5	65.2					
最高年齢	89	84	89					

#### 5. 職員研修について

##### ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
法人合同研修	支援職	9月26日	7名	
新任研修	支援職	10月31日	1名	
法人合同研修	支援職	11月28日	7名	
法人合同研修	支援職	1月30日	9名	
〇氏講演会	支援職	12月1日	6名	

##### イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
県社会福祉協議会	新人職員研修	5月14日	1	
県知的障害者福祉協会	虐待防止及び身体拘束に向けた研修会	6月8日	1	
県社会福祉協議会	キャリアデザイン研修	6月10日・30日	1	
船橋市保健所	給食施設従事者研修	7月1日	1	
県社会福祉協議会	福祉施設会計（簿記）研修	7月10日	1	
県社会福祉協議会	キャリアデザイン研修 チームリーダー編	7月24日	1	
県障害福祉課	相談支援従事者初任者研修	8月4日・5日	1	
日本てんかん協会	てんかん基礎講座	8月4日・5日	1	
千葉県公安委員会	安全運転管理者講習	8月25日	1	
県知的障害者福祉協会	リーダーパワーアップ研修会	9月3日・4日	1	
県障害福祉課	障害者虐待防止・権利擁護専門研修	10月6日	1	
県知的障害者福祉協会	給食研修会	10月20日	1	

県障害福祉課	障害者虐待防止・権利擁護専門研修	11月4日	1	
県社会福祉協議会	アサーショントレーニング研修	11月25日	1	
県社会福祉協議会	障害者虐待防止・権利擁護専門研修 ～職員のメンタルヘルス	11月27日	1	
袖ヶ浦福祉センター	強度行動障害者支援検討会	12月18日	1	
県社会福祉協議会	障害者虐待防止・権利擁護専門研修	1月20日 1月26日	1 1	
県社会福祉事業団	障がい児・者支援サービス基礎講座	2月26日	1	
社会福祉法人大成会	自閉症基礎研修	3月5日	1	

6. 事故の発生について \*ヒヤリハットを除く

NO	発生日月	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考
1	H27.12.22	公園にてボランティアさんと散歩中に転倒。顔面に擦過傷及び入れ歯の破損。	ボランティアさんとの散歩でも職員が必ず近くに付き見守るようにする。	有	

平成 27 年度  
社会福祉法人さざんか会  
事業報告(統一版)

事業所名〔北総育成園〕

## 1. 平成 27 年度事業活動重点事項及び成果

(はじめに)

北総育成園のその年を言葉にする時、過ぎ去った年月(42年)を頭の片隅に置きながら語ることが求められます。船橋市手をつなぐ親の会の発足は1954(昭和29)年のこと。その後、20年の伏流水の期間を経て北総育成園は1974(昭和49)年4月1日に開園。以後、この地で障害福祉の一翼を担い2015(平成27)年3月31日を以て満42年の歳月を刻みました。「親亡き後のわが子の幸せ」。そこにはそんな切ないちははの願いが託されていました。流れ去った42年の歳月をここで語ることは出来ません。が、人生一昔10年の四昔、40年。平成27年4月冒頭では利用者の平均年齢55才。皆、歳を取りました。白髪頭、禿げ頭、皺のよった顔。介護的支援が年毎に増えていきます。医療的支援の必要な人も多くなりました。ちははの多くはわが子の行先を案じながら鬼籍に誘われました。この間、1990(平成元年)増員増築工事。定員50名→75名へ。03年、措置制度から支援費制度へ移行。06年当園は船橋市指定管理制度に移行。

### 27 年度事業の成果

◎ 4/16(木)一つの区切りとしての北総育成園創立40周年記念式典(船橋市事業としての北総育成園建物工事全て完了のお祝いも兼ねる)挙行。

東日本大震災は2011年のこと。この年、11月より船橋市事業として北総育成園個室棟建設工事、引き続いての昭和49年当初の建物の大改修工事が都合3年の歳月を経て平成26年12月に竣工。その工事終了を引き受けて、27年4月1日付、竣工した全ての建物の全面使用が開始されました。

27年度事業開始直後の4月16日、船橋市長、東庄町町長をはじめ、多くの関係者にご参集して頂き、北総育成園創立40周年記念式典を行うことが出来ました。正確には今年北総創立42年目だったのですが、船橋市事業としての北総育成園新築大改修工事終了を待って、その竣工祝いも兼ねての催しと致しました。

この年はこの40周年記念式典の余波で、人呼びの行事等も控え、ゆっくりと40周年の余韻に浸って過ぎた一年でした。利用者の高齢化についてはその都度お伝えしているところですが7月には75歳のOさんを手放すこととなりました。口から物を食べられなくなり、意識も昏睡状態が散見されたことによります。わが子の為に本当に熱心に活動された保護者の相次ぐ死。大変さを当たり前引き受けねばならぬ時代となりました。

建物は新しくなりそれは素晴らしいことでしたが職員の確保が難しい時代。それで献身的にこの人に寄り添ってくれる職員に支えられてこの一年何とか乗り切ることが出来ました。これから先、入所型施設は“お世話する”ことだけで済みません。介護や医療についての技術、知識が求められます。どう切り拓いていくか。お力添え願います。

## 2. 職員体制と人材確保(常勤換算数)※小数点2位四捨五入

	管理者	サビ管等	支援員・世話 人・保育士等	看護師	調理員・栄養 士	その他(運転 士等)	計
27年度当初							
男子	1	1	16 4(2.1)	( )	( )	( )	18 4(2.1)
女子		1	18 16(9.1)	1 ( )	4 ( )	2 ( )	26 16(9.1)
計	1	2	54	1	4	2	64
年度中増減							
男子			3増3減	( )	( )	( )	18 4(2.1)
女子			4増5減 (1増3減)	( )	( )	( )	25 14(8.1)
計							-3
28年度当初	1	2	33 18 (10.2)	1 ( )	4 ( )	2 ( )	43 18(10.2)
計	1	2	51	1	4	2	61

\*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を( )内に別記する。

## 3. 施設等利用者の状況

### (1)利用契約者

利用事業名	生活介護	就労継続B	入所支援		計
定員	75名		75名		
27年度当初契約者数	76名		74名		
年度内新規契約者数	1名		1名		
年度内解約者数	1名		2名		
年度末契約者数	76名		73名		

### (2)利用率

利用事業名	生活介護	就労継 続B	入所支援		計
年間延契約者数	21,060名		26,959名		
年間開所日数	270		366		
年間延利用者数	20,320名		25,888名		
利用率	96%		96%		

## (3)利用者の年齢区分(平成28年4月1日時点)

年齢区分	20才未満	21～25	26～30	31～35	36～40	41～45
男子	0	0	1	3	3	12
女子	1	0	1	1	0	5
計	1	0	2	4	3	17
構成比率	1.3%	0.0%	2.6%	5.3%	3.9%	22.3%

46～50	51～55	56～60	61～65	65歳以上	計	平均年齢
8	4	11	2	4	48	50.89
2	3	5	3	7	28	54.17
10	7	16	5	11	76	52.1
13.2%	9.2%	21.1%	6.6%	14.5%	100%	

## (4)利用者の障害程度(支援)区分(平成28年4月1日時点)

事業名(生活介護)

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男子	0	2	14	32	48	5.62
女子	0	1	11	16	28	5.53
計	0	3	25	48	76	5.59
構成比率	0%	4%	32%	64%	100%	

事業名(入所支援)

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男子	0	2	13	32	47	5.63
女子	0	1	11	14	26	5.5
計	0	3	24	46	73	5.58
構成比率	0%	4%	33%	63%	100%	

## (5)援護市町村区分

市町村区分	船橋市	市川市・習志野市・鎌ヶ谷市・八千代市	東庄町・銚子市・香取市・旭市	その他		計
				県内	県外	
男子	37	2	5	4	0	48
女子	11	2	5	6	4	28
計	48	4	10	10	4	76
	63.2%	5.2%	13.2%	13.2%	5.2%	100%

#### 4. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	16	4	11	8	7		1	47
女子利用者	3	3	3	14	2		1	26
計	19	7	14	22	9		2	73
平均年齢		75	75.6					
最高年齢		89	96					

#### 5. 職員研修について

##### ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
新任研修会	8	27年4月1日	8	
医務講習会	35	27年4月8日	35	
虐待防止研修会	35	27年4月8日	35	
保護者職員合同宿泊研修	35	27年7/30~31	35	

##### イ、 外部団体等主催研修への参加 (\*詳細は事業報告書にて)

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
千葉県知的障害福祉協会	新任職員研修	27年6/17~18	4	
千葉県知的障害福祉協会	中堅職員研修	27年9/3~4	4	
千葉県知的障害者福祉協会	障害者施設部会	27年12/3~4	5	
千葉県社会福祉研修センター	障害者虐待防止・権利擁護専門研修	28年1/26	2	
千葉県障害福祉課・CAS	強度行動障害支援者研修	通年36回	1	

#### 6. 事故の発生について \*ヒヤリハットを除く

NO	発生日月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考
1	平成27年 9月29日	男性利用者の怪我による通院	居室移動の上、障害特性を理解して適切な支援対応	船橋市届ける	
2	平成28年 2月14日	男性利用者の怪我による通院	てんかん、ハットギア、付添	船橋市届ける	

平成 27 年度  
社会福祉法人さざんか会  
事業報告(統一版)

事業所名〔 ゆたか福祉苑 〕

## 1. 平成 27 年度事業活動重点事項及び成果

### ○研修と支援力の向上

スタッフ体制が整わず人員を割くことが難しいため、外部の研修にはなかなかスタッフを派遣しづらい状況ではありましたが、事業所にとって或いはターゲットとなるスタッフ個人にとって効果的と思われる研修会があれば、できるだけ受講できるようにしました。受講者自身の知識の習得に加え、他のスタッフも研修を模擬受講できるような効果を期待し、受講者には文面による報告のみならず、その後の職員会議にて、自らが受けた研修内容を他のスタッフに向けて発表するという機会を設け、『皆で学ぶ』という意識を大切にしました。

数年来、法人内のサービス管理責任者間で話題にあがっては立ち消えてしまっていた『事業所間スタッフ交流研修』について、通所系事業所（けいよう、カメラハウス、ゆたか福祉苑）間で、今年度実施することができました。まだ始まったばかりですが、法人内の同じ事業であっても、事業所によりそれぞれの特色や様々な違いがあることに気づくことが出来、参加したスタッフは良い刺激を受けているようです。今後も情報交換、情報共有しながら回を重ね、それぞれの事業所の支援力アップを目指していきたいと考えます。

### ○送迎について

昨年度末に発注したハイエースが 6 月に納車となり、送迎車輛 1 台を更新しました。コースの効率化や時間の短縮、ニーズの整理を行うため、これを機に送迎体制およびコースを一部変更いたしました。新車発注の段階からスタッフ間で意見を交換し合い準備に努めてきたこと、ならびに車輛の変更やバス停の移動にご協力いただいた事で、比較的スムーズに運用を進めることが出来たと感じています。

年末に、交通渋滞対策として帰りの出発時間を若干早めました。以前と比較すれば、渋滞に巻き込まれ遅れてしまう事態が回避されています。それでも後半の方にはお待ちいただいている日もあるため、年明け以降も早めの出発を継続しました。

様々なニーズや課題を抱えている送迎については、一度にすべてがクリアになることはなくまだまだ課題が山積ですが、機会があるごとに改善に取り組んでいきたいと考えます。

### ○行事について

長年、船橋市手をつなぐ育成会と共同で開催してきました『ゆたかの夕べ』につきましては、今夏をもって共同開催を終了させていただきました。最後まで無事に開催させていただく事ができましたこと、ご来賓の方々をはじめ、ご参加くださいました皆様に改めて感謝申し上げます。また、舞台出演や屋台販売のボランティアの皆様、その他たくさんの方々を力をお借り致しました。本当にありがとうございました。

今年度の新たな全体行事の取り組みとして、外出イベントの拡充に取り組みました。昨年度までの土曜登苑日における外出イベントの経験と反省を活かし、混雑を避けるた

め平日に行うこととし、様々なリスクを軽減するため小集団での分割実施としました。どのイベントも実施時期に応じた季節の風情や味わいを実感でき、皆様に楽しんで頂けたように感じています。

そして土曜登苑日については、季節をテーマにしたイベントや音楽鑑賞など室内での催しをメインとする事で、参加される方のペースにゆったりと寄り添いながらゆとりを持ってお楽しみ頂けたのではないかと思います。

この他、各班ごとに季節に応じた外出や、合同ランチ等に取り組みました。

#### ○その他

ご利用者様の急な体調変化による医療機関の受診および、入院等がありました。ケースによって度合いは異なりますし、私たちが手出しできない部分については無力感を感じる事もありましたが、ご利用者様の体調を見守っていく上で、これまで以上に医療との結びつきが大事であると感じられました。

次年度からの実施を予定しています建物改修工事について、スタッフ間での意見を集約したり、設計業者と工事の進め方等について打ち合わせを進めております。なかなか思惑通りに進まないことも多いかもしれませんが、皆様にとってより良い改修となるよう努めております。

## 2. 職員体制と人材確保(常勤換算数)※小数点2位四捨五入

	管理者	サビ管等	支援員	看護師	調理員・栄養士	その他(運転士等)	計
27年度当初					メリックス㈱委託		
男子	1	2	11.9 (3)	( )	( )	0.4 (1)	15.3 (4)
女子			19.7 (7)	1 ( )	( )	1.9 (1)	22.6 (8)
計	1	2	31.6	1			37.9
年度中増減							
男子		-0.5	-1.5	( )	( )	( )	-2
女子			-2	( )	( )	( )	-2 ( )
計	0	-0.5	-3.5	0		0	-4
28年度当初	1 (サビ管兼)	1.5	28.1 (11)	1 ( )	メリックス㈱委託 ( )	2.3 (2)	33.9 (13)

\*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を( )内に別記する。

## 3. 施設等利用者の状況

### (1)利用契約者

利用事業名	生活介護	重心多機能			計
定員	75	5			80
27年度当初契約者数	86	7			93
年度内新規契約者数	0	0			0
年度内解約者数	2	0			2
年度末契約者数	84	7			91

### (2)利用率

利用事業名	生活介護	重心多機能			
年間延契約者数	21,460	1,757			
年間開所日数	251	251			
年間延利用者数	18,659	655			
利用率	99.1%	52.2%			

## (3)利用者の年齢区分(平成28年4月1日時点)

生活介護(75名定員)

年齢区分	～19	20～29	30～39	40～49	50～	計
男子	1	9	10	31	4	55
女子		3	3	20	2	28
計	1	12	13	51	6	83
構成比率	1.2%	14.5%	15.7%	61.4%	7.2%	

## 重心多機能(放課後デイ&amp;生活介護)

年齢区分	放課後デイ	～19	2～29	30～39	40～	計
男子	1(14歳)		2	2		5
女子	1(13歳)		2		1	4
計	2		4	2	1	9

## (4)利用者の障害支援区分(平成28年4月1日時点)

事業名(生活介護)

区分	3	4	5	6		
男子	2	14	20	19		
女子	2	4	7	15		
計	4	18	27	34		
構成比率	4.8%	21.7%	32.5%	41%		

事業名(重心多機能)

区分	6					
男子	5					
女子	4					
計	9					
構成比率	100%					

## (5)援護市町村区分(平成28年4月1日時点)

市町村区分	船橋市	千葉市・習志野市・四街道市・八千代市	その他		計
			県内	県外	
男子	57	3			60
女子	31	1			32
計	88	4			92
構成比率	95.6%	4.4%			

#### 4. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	39	4	12	3	1	1		60
女子利用者	16	3	10	3				32
計	55	7	22	6	1	1		92
平均年齢								
最高年齢								

#### 5. 職員研修について

##### ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
新任職員研修	新任職員	5/30,10/31		ディスカッションによる自身の現状と課題の整理および、チェックシートを用いた業務の振り返り。 自事業所のプレゼンテーション。
法人内部研修	法人職員	9/26,11/28, 1/30		合同研修係主催で実施。
苑内研修	支援職員	各月職員会議日		課題となる事例を基にグループディスカッション。 外部研修参加者による発表を受けての自主研修。
防災講習会	支援職員	5/30,		防火管理者による自主講習会。救出救護の演習。

##### イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
千葉県知的障害者福祉協会	リーダーパワーアップ研修	9/3・4	1名	
(福)桐友学園	きりともセミナー	9/17	2名	
日本知的障害者福祉協会	行動理解・支援力パワーアップセミナー	9/ 26・27	1名	
千葉県社会福祉協議会	ストレスマネジメント研修	10/1	1名	
東京都障害者通所活動施設職員研修会	重症心身障害者の意思決定支援	11/19	1名	

千葉県知的障害者福祉協会	虐待防止及び身体拘束廃止に向けた研修会	11/26	1名	
千葉県重症心身障害日中活動支援協議会	施設見学（千葉市桜木園） 講義（発達障害について）	11/27	1名	
東社協・都通研 合同	生きづらさを抱えた利用者への支援とは何か	12/8	1名	
千葉県社会福祉協議会	成年後見制度基礎研修	12/8	1名	
千葉県社会福祉協議会	新任職員福祉入門講座	1/8	1名	
千葉県社会福祉事業団	強度行動障害者支援検討会	2/19	1名	

## 6. 事故の発生について \*ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考
1	H27.4.17	遊びから行動がエスカレートしてしまった方に対し場面転換を図る目的で更衣室へ誘導した際、ドアの柱に顔面をぶつけ裂傷を負わせてしまった。	安易に場面転換を図るのではなく、相手の方の特性を考慮し冷静に対応する。（スタッフ個々が問題意識を持つよう、職員会議にて自主研修の題材とした）	有	
2	H27.12.4	てんかん発作があるため腕を抱える形で介助しながら歩行していた際、地面の凹凸に躓かれ前のめりに転倒するのを防ごうとスタッフが腕に力を込めたところ逆にご利用者様の腕を骨折させてしまった。	より丁寧で安全な介助方法について、班のスタッフ間で確認を行った。 回復されるまでの間、2名介助で対応しました。	有	
3	H27.12.8	ホームセンターで買い物中、一人の方の動きに注意を向けている間に他のお二人を見失った。応援スタッフが駆けつけ発見に至るまでおよそ40分かかった。	それぞれのペースや関係性を踏まえたメンバー構成とする。 事前に相手の動きや特性をイメージし、支援のポイントを整理しておく。	無	

平成 27 年度  
社会福祉法人さざんか会  
事業報告(統一版)

事業所名 [ のまる ]

## 1. 平成27年度事業活動重点事項及び成果

### (1) 入居者支援の振り返りシート実施

入居者への支援について、振り返りシートに記入し、それをもとに管理者との面談を行い自己の業務を点検する。日々実践していることが利用者さんの支援になっているのか、自己の行っている支援に誤りはないか、過度に自己評価が低くならないように自己チェックを行うことでスキルアップに活かしていく。

と同時に管理者とのコミュニケーションを図り、支援者としての考え、自己評価と合わせ、チームとしての支援力アップを目指していく。

### (2) 医療との連携

ニュージューはじめ、利用者さんの高齢化と行動の変化から体調の急変もあり、医療機関との連携は日常的になっている。誤嚥性肺炎や転倒などけがにも気づくことは職員にとっても必要なスキルである。

医療機関によっては診察を断られることもあるので、医療機関情報を把握し看護師を中心にその情報を共有していく。

これまで看護師が非常勤で週2～3日程度だったが、もう1名11月から増え、月曜日から金曜日まで看護師が常駐し、週2日は2人体制が整ってきています。今後も利用者さんの体調管理のため2人体制を継続していきたいところです。

てんかんを専門とする医療機関が船橋市内にはないので、八千代の八千代病院に嘱託医を依頼していますが入院の対応は困難な状況です。入院が必要なケースの相談先としては、国立国府台病院や鎌ヶ谷市の秋元病院など上げられます。平成27年8月ある男性利用者さんは、こだわりが強まり居室を破壊し緊急で秋元病院に入院しています。退院後、特定の利用者さんへのこだわりがあり、薬の調整や支援の統一を図っています。

また、リユン又利用の女性利用者さんが、28年1月4日30分以上意識の覚醒がなく救急車で二和病院に搬送しています。このようなことが短い期間で続き、当該病院にて薬の調整を行い現在は安定しています。他の利用者さんでも28年2月中旬急に目の周りを掻き毟る行為が見られ、通院先を変えると前頭葉の奥深い部分でのてんかんと診断され、その後は安定して生活されています。

白井市役所の近くに日曜日でも診察する医療機関があり、夜間でもセコメディック病院が対応してくださるなど対応して下さる医療機関が増えていくことは心強い限りです。

### (3) 生活介護事業の再編について

慢性的な職員不足は、のまらに限らずさざんか会や全国の障害者支援施設にみられる事象です。特に男性職員の不足は深刻です。夜勤体制が確保できず、宿直体制をとらざるを得ず、職員からは、拘束時間の長さを指摘されます。

日中活動の場をこのような中維持することは難しく、従たる事業所の一つ習志野の事業所を閉め、利用者さんには慣れ親しんだ事業所を閉鎖することは心苦しいところでは

ありますが人員不足は深刻です。生活介護事業所はのまると従たる事業所「サテライト三咲」に集約し、日中活動を充実させていくことが大切な課題であると考えます。

日中活動においては、年度末に発泡スチロールリサイクル事業を検討し機械の導入を図っていきます。これは、発泡スチロールを燃料にするものとリサイクルして再び発泡スチロールにする事業です。利用者さんにとっては、社会貢献になる事業で、発泡スチロールの確保も機械メーカーが積極的に関わるものです。潰した発泡スチロールは専門の業者がキロ60円ほどで引き取るものです。

#### (4) グループホームの整備

利用者の高齢化により、医療を必要とする利用者さんも多くなり、生活単位として小グループで過ごすことがより快適性を増すものと考えます。ところが、グループホームにおいては、消防法や建築基準法運用からスプリンクラーの設置を求められ、整備が進まない状況にあります。

その一方、保護者が高齢化してくる利用者さんは、のまらが終の棲家にと考える方が多く、地域移行が難しい利用者さんもおられます。グループホームについては、利用者さんのご家族、後見人等とも意向を確認した上で施設としても提案していきたいところです。半数近くの利用者さんは、建設当時ののまらを住居としていますので、生活の場についてご本人やご家族とも十分話し合っていく必要性を感じています。

#### (5) 人材の確保

ハローワークに求人募集を行い年度内に人員の確保ができました。今後は、さらに「辞めない職場づくり」を進めていきたいところです。求人については、ハローワークとホームページに求人情報を掲載するなどITを活用した求人を充実させていくことが有効かと考えます。

一方採用後の新人研修を法人内部で行っていますが、のまらでも職員間のコミュニケーションを図る意味からも研修の必要性を痛感しています。繰り返しになりますが「辞めない職場づくり」を事業所として努力しなければならないところです。

## 2. 職員体制と人材確保(常勤換算数)※小数点2位四捨五入

	管理者	サビ管等	支援員・世話 人・保育士等	看護師	調理員・栄養 士	その他(運転 士等)	計
27年度当初	1	1	24(13)	1			27(13)
男子	1	1	9(2)	0			11(2)
女子	0	0	15(11)	0			15(11)
計	1	1	24(13)	1			27(13)
年度中増減	0	0	3( )	1			4( )
男子	0	0	3( )	0			3( )
女子	0	0	0( )	1			0( )
計	0	0	3( )	1			4( )
28年度当初	1	1	25(9)	(2)			27(11)
計	1	1	25(9)	(2)			27(11)

\*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を( )内に別記する。

## 3. 施設等利用者の状況

### (1)利用契約者

利用事業名	生活介護	短期入所	入所支援		計
定員	40名	7名	35名		
27年度当初契約者数	37名	11名	33名		
年度内新規契約者数	0名	1名	3名		
年度内解約者数	2名	0名	3名		
年度末契約者数	35名	12名	33名		

### (2)利用率

利用事業名	生活介護	短期入所	入所支援		計
年間延契約者数	428名	84名	397名		
年間開所日数	263	365	365		
年間延利用者数	8428名	1923	11520名		
利用率	89.8%	75.0%	95.3%		

## (3)利用者の年齢区分(平成28年4月1日時点)

年齢区分	20才未満	20～29	30～39	40～49	50～59	60歳以上
男子	0	5	7	10	3	1
女子	0	2	1	2	2	0
計	0	7	8	12	5	1
構成比率	0%	21%	24%	36%	15%	3%

				65歳以上	計	平均年齢
				0	26名	40.8歳
				0	7名	46.0歳
				0	33名	41.9歳
				0%	100%	

## (4)利用者の障害程度(支援)区分(平成28年4月1日時点)

## 事業名(生活介護)

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男子	1	3	6	18	28	5.5
女子	0	2	1	4	7	5.2
計	1	5	7	22	35	5.4
構成比率	4%	16%	23%	62%	100%	

## 事業名(入所支援)

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男子	1	3	6	16	26	5.4
女子	0	2	3	2	7	5
計	1	5	9	18	33	5.2
構成比率	3%	16%	26%	55%	100%	

## (5)援護市町村区分

市町村区分	船橋市	市川市・習志野市・鎌ヶ谷市・八千代市	東庄町・銚子市・香取市・旭市	その他		計
				県内	県外	
男子	23	3	0	0	0	26
女子	6	1	0	0	0	7
計	29	4	0	0	0	33
	87%	13%				100%

#### 4. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	17	2	3	3			1	26
女子利用者	4	1	0	2			0	7
計	21	3	3	5			1	33
平均年齢								
最高年齢								

#### 5. 職員研修について

##### ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
コミュニケーション	支援職	27年9月26日	7	
新任研修	新人	27年10月31日	4	
合同研修	支援職	27年11月28日	8	
個別支援計画	支援職	28年1月30日	5	

##### イ、 外部団体等主催研修への参加 (\*詳細は事業報告書にて)

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
千葉県	強度行動障害	H27/5/9	1	
千葉県	強度行動障害	H27/5/12	1	
千葉県	強度行動障害	H27/5/27	1	
千葉県	強度行動障害	H27/6/4	1	
千葉県	強度行動障害	H27/6/14	1	
千葉県	強度行動障害	H27/6/20	1	
千葉県	虐待防止	H27/6/8	2	
千葉県	強度行動障害	H27/6/29	1	
千葉県	強度行動障害	H27/7/2	1	
千葉県	強度行動障害	H27/7/8	1	
千葉県	強度行動障害	H27/7/18	1	
千葉県	強度行動障害	H27/7/19	1	
千葉県	強度行動障害	H27/7/20	1	
千葉県	強度行動障害	H27/8/12	1	
千葉県	強度行動障害	H27/8/31	1	

千葉県社会福祉協議会	コミュニケーション	H27/9/9	1	
主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
千葉県	強度行動障害	H27/9/14	1	
千葉県	強度行動障害	H27/9/18	1	
千葉県	強度行動障害	H27/9/27	1	
千葉県	強度行動障害	H27/9/27	1	
千葉県社会福祉協議会	ストレスマネジメント	H27/10/1	1	
千葉県	虐待防止	H27/10/13	1	
千葉県社会福祉協議会	コーチング	H27/10/15	1	
千葉県	強度行動障害	H27/10/17	1	
千葉県	強度行動障害	H27/10/30	1	
千葉県社会福祉協議会	障害特性	H27/11/2	1	
千葉県	強度行動障害	H27/11/4	1	
千葉県知的福祉協会	GH世話人研修	H27/11/10	1	
自閉症協会	全国大会	H 27/11/12 - 13	1	
大成会	自閉症基礎	H27/11/15	1	
千葉県	強度行動障害	H27/11/13	1	
千葉県社会福祉協議会	音楽療法	H27/11/20	2	
千葉県	強度行動障害	H27/11/20	1	
千葉県社会福祉協議会	アサーション	H27/11/25	1	
千葉県	虐待防止	H27/11/26	1	
千葉県	強度行動障害	H27/11/27	1	
千葉県	強度行動障害	H27/11/28	1	
	〇氏講演会	H27/12/1	5	
千葉県	虐待防止	H27/12/10	1	
千葉県社会福祉協議会	摂食嚥下	H27/12/18	1	
千葉県	強度行動障害	H27/12/18	1	
千葉県社会福祉協議会	バリテーション	H28/1/13	1	
千葉県	強度行動障害	H28/1/14	1	
千葉県	虐待防止	H28/1/20	1	
千葉県	強度行動障害	H28/1/20	1	
千葉県	虐待防止	H28/1/26	1	
千葉県歯科医師会	摂食嚥下	H28/1/31	1	
千葉県知的福祉協会	職員研修	H28/2/2	1	
千葉県社会福祉協議会	口腔ケア	H28/2/2	1	

6. 事故の発生について \*ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考
1	H27/5/2	利用者のけが		○	
2	H27/7/24	利用者の破壊行為	環境の調整	○	
3	H28/1/3	利用者の転倒による けが	危険個所の点検	○	

平成 27 年度  
社会福祉法人さざんか会  
事業報告(統一版)

児童発達支援センター

事業所名 〔とらのこキッズ〕

## 1. 平成 27 年度事業活動重点事項及び成果

今年度は【さざんかキッズ】開設に伴う人事異動等により平成 18 年に開設した当事業所にとってもターニングポイントとなった年でした。

雇用形態に関することなく保育者たちは日々の保育・療育活動において、前任の園長や児童発達支援管理責任者、他スタッフのフォローとお助けをいただきながらも、「これまで」を基盤にしながら主体的に自分たちで「これから」を手探りで考え実行し始めようとしてくれました。

私たちはお子さんに対して「主体的に」という文言をよく使いますが、「主体的」の姿勢は「自分の力を信じる＝自己肯定感」がなければ生まれないことを保育者自身が身を持って感じてくれたことかと思えます。

また調理・事務・運転・専門職等においても、職種に関することなく周囲に気配りしながら勤務していただきましたことに感謝申し上げます。特に調理業務においては開設以来自前での「美味しい・楽しい・安全」をキーワードとした給食を提供頂きましたが、28 年度からは外部事業者への業務委託となりました。長年に渡り勤務していただき本当にありがとうございました。

年度途中でのクラス担任保育者の退職が 1 名ありその補充ができないまま年度を終えてしまい、対象となったクラスのお子さんと保護者の方にはご迷惑をお掛けする結果となってしまいました。次年度は同じことがないように努めさせていただきます。

## 2. 職員体制と人材確保(カッコ内は常勤換算数)※小数点2位四捨五入

	管理者	サビ管等	支援員 世話人 保育士等	看護師	調理員 栄養士	その他 (運転士等)	計
27年度 当初	常勤 1	常勤 1	常勤 12 非常勤 3 (2.1)	常勤 1 (兼務)	常勤 2 (栄養士 1 兼務) 非常勤 1(0.9)	常勤 1 非常勤 5 (1.6)	常勤 18 非常勤 9 <b>27 (20.6)</b>
男子	0	0	0	0	0	非常勤 1 (0.5)	非常勤 1 (0.5)
女子	常勤 1	常勤 1	常勤 12 非常勤 3 (2.1)	常勤 1 (兼務)	常勤 2 (栄養士 1 兼務) 非常勤 1(0.9)	常勤 1 非常勤 4 (1.1)	常勤 18 非常勤 8 <b>24 (20.1)</b>
計	1	1	15 (14.1)	0	2 (1.9)	6 (1.6)	<b>27 (20.6)</b>
年度中 増減	0	0	常勤-1	0	0		常勤-1
男子	常勤+1	0	0	0	0	0	常勤+1
女子	常勤-1	0	常勤-1	0	0	0	常勤-2
計	0	0	常勤-1	0	0	0	常勤-1
28年度 当初	1	1	常勤 12 非常勤 3 (2.1)	0	0	常勤 1 非常勤 5 (1.6)	常勤 15 非常勤 8 <b>23 (18.7)</b>

## 3. 施設等利用者の状況

### (1) 利用契約者

利用事業名	保育所等訪問支援	児童発達支援	計
定員	0	30	30
27年度当初契約者数	1	36	37
年度内新規契約者数	0	1	1
年度内解約者数	0	1	1
年度末契約者数	1	36	37

## (2) 利用率 ※児童発達支援のみ

利用事業名	保育所等訪問支援	児童発達支援	計
年間延契約者数	1	441	453
年間開所日数	—	246	246
年間延利用者数	—	7,384	7,384※
利用率	—	81.6%	81.6%※

※児童発達支援の実利用者数による計算

## (3) 利用者の年齢区分(平成27年4月1日時点) ※児童発達支援のみ

年齢区分	20才未満	21~25	26~30	31~35	36~40	41~45
男子	28	0	0	0	0	0
女子	8	0	0	0	0	0
計	35	0	0	0	0	0
構成比率	100%	0	0	0	0	0

46~50	51~55	56~60	61~65	65歳以上	計	平均年齢
0	0	0	0	0	28	4.5
0	0	0	0	0	8	4.4
0	0	0	0	0	35	
0	0	0	0	0	100%	

## (4) 利用者の障害程度(支援)区分(平成26年4月1日時点)

事業名(児童発達支援)

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男子					該当なし	
女子					該当なし	
計						
構成比率					0%	

事業名(入所支援)

区分					計	平均区分
男子					該当なし	
女子					該当なし	
計						
構成比率					0%	

(5) 援護市町村区分

市町村区分	船橋市	市川市・習志野市・鎌ヶ谷市・八千代市	東庄町・銚子市・香取市・旭市	その他		計
				県内	県外	
船橋市	36	0	0	0	0	36
						100%

4. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	27	0	1	0	0	0	0	28
女子利用者	8	0	0	0	0	0	0	8
計	36	0	0	0	0	0	0	36
平均年齢	38.5	38.7	31.0					
最高年齢	48							

5. 職員研修について

ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
合同研修	支援職員	H27.4.1	職員一同	
新人研修	支援職員	H27.6.10	新人職員一同	
内部研修	支援職員	H27.9.16	職員一同	
第1回法人合同研修	支援職員	H27.9.26	職員一同	
第1回事務職会議	事務職員	H27.10.27	事務職員	
新人研修	支援職員	H27.10.31	新人職員一同	
第2回法人合同研修	支援職員	H27.11.28	職員一同	
第3回法人合同研修	支援職員	H28.1.30	職員一同	

イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加人数	備考
船橋市	摂食嚥下の正常発達	H27.6.11	1名	
船橋市	摂食嚥下機能の障害と指導	H27.6.18	1名	
船橋市	摂食嚥下指導の実際（実習）	H27.7.2	1名	
船橋市	第1回感覚統合入門講座	H27.7.24	1名	
発達協会	夏季セミナー	H27.29~30	1名	
発達協会	夏季セミナー	H27.7.31	1名	
発達協会	夏季セミナー	H27.8.1	1名	
発達協会	夏季セミナー	H27.8.2~3	2名	
発達協会	夏季セミナー	H27.8.4~5	1名	
発達協会	夏季セミナー	H27.8.6	1名	
船橋市	第2回感覚統合入門講座	H27.8.7	1名	
発達協会	夏季セミナー	H27.8.8~9	1名	
船橋市	第3回感覚統合入門講座	H27.8.21	1名	
MAKE THE FUTURE	TOUCH TO FUKUSHI	H27.9.1	1名	
船橋市	第4回感覚統合入門講座	H27.9.4	1名	
日本音楽療法学会	日本音楽療法学会学術大会	H27.9.11~13	1名	
全国児童発達支援協議会	第4回関東ブロック研修会	H27.9.27	4名	
千葉県	障害児セミナー	H27.10.5	1名	
船橋市	第5回感覚統合入門講座	H27.10.9	1名	
船橋市	支援学級見学（三咲小）	H27.10.20	1名	
船橋市	支援学級見学（八木が谷北小）	H27.10.23	1名	
千葉県	障害者虐待防止・権利擁護専門研修	H27.11.2	1名	
船橋市	船橋市特別支援学校 公開研究会	H27.11.19	1名	
千葉県手をつなぐ育成会 まんなか隊	支援者として向き合う力をつけるには	H27.12.1	5名	
千葉県	障害者虐待防止・権利擁護	H27.12.16	1名	
障害福祉を考える会 合宿	障害福祉を考える会合宿	H27.12.26~27	1名	
	県外事業所視察研修（大阪市）	H28.1.12	1名	
千葉県	障害者 GH 等従事者研修	H28.2~3	1名	
千葉県	障害者相談支援事業 相談支援専門員現任者講習	H28.2.8~10	1名	
NPO 法人全国障害者地域 サポート研究会	全国障害者地域生活サポート研究セミナー	H28.2.14	1名	

6. 事故の発生について \*ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備 考
1	H27.10.21	園庭遊具より転落し 背中を打つ。	転落の恐れのある 遊具使用時の見守 りを徹底する。	あり	
2	H27.12.15	園庭にて追いかけて こ中に衝突。 前歯より出血。	動きが活発な児童 について、周囲の安 全を確保すること を徹底する。	あり	

平成 27 年度  
社会福祉法人さざんか会  
事業報告(統一版)

児童発達支援センター

事業所名〔さざんかキッズ〕

## 1. 平成 27 年度事業活動重点事項及び成果

### 1 新規施設の基礎作りの年

○保育士を初めとする各専門職との連携を密にしながら日々の療育を進めてきた。初年度ならではの慌ただしさに加え、療育の質と量を保障する為に行事等もこれまでと変わりなく設定し実施して来た。

職員にとってはかなり厳しいスケジュールとなってしまったが、試行錯誤の中で一人一人が本当に頑張ったお蔭で大きな事故もなく、何とか無事に初年度を乗り切ることが出来た。

○各職種職員の専門性を十分に発揮する為の組織として構築させていくことが、今後も大きな課題である。

### 2 年少児と肢体不自由児の受け入れ

○ここ数年の懸案事項であった年少児の待機児童を、契約児童 72 名中 27 名受け入れることで、待機児を 0 名とすることが出来た。

○今年度は、看護師を 2 名(常勤 1 非 1)採用したことで、肢体の児童 5 名と知的の児童で導尿 1 名、経管栄養 1 名の受け入れをすることが出来た。

### 3 「さざんか学園」からの引き継ぎと保護者対応

○市からの委託を受け、4月から6月は「さざんか学園」として35名を受け入れ療育を行う。また、この3ヶ月は「さざんかキッズ」の開園を待つ待機保護者への受け入れの為の説明会や契約等準備作業に忙しい時期であったが、ホームページで建設の進捗状況をお伝えするなど、保護者の不安や疑問にはその都度対応していく事で安心してご利用頂けるように努めた。  
また「さざんか学園」から継続の保護者からの要望にも、話し合いの場を設け出来る限り応えてきた。

○卒園児 13 名(肢体 2 名⇒ 県立船橋特別支援学校・知的 11 名 ⇒千葉大付属特別支援学校 1 名・市立船橋特別支援学校 5 名：市内支援学級 5 名)を送り出した。

## 4 業務委託業者との関係

### ○送迎運行業務

日本総合株式会社による業務委託に於いては、契約がぎりぎりの中、開園前よりルートの打ち合わせを綿密に実施し、何とか初日の運行に間に合った。

年度途中には、ルート見直しや時間の変更・運転士の交代や接触事故等の発生もあったが、大事には至らなかった。

### ○厨房：給食業務

株式会社メフォスによる業務委託に於いては、「さざんか学園(公立・業務委託契約)」から引き継ぎの契約条件で実施。栄養士を中心に定例会議を設けながらアレルギー食や肢体児童用の形態食を実施し療育施設としての給食提供をしてきたが、内容にはまだまだ課題がある。

## 5 研修の充実と人材確保

### ○開園前の4月から6月の間に肢体クラス担当中心に研修を強化した。

開園後は、職員体制の整備不足から外部研修について十分に設定することが出来なかった。

### ○人材については、開園ぎりぎりまで確保に追われ、何とか配置することは出来たものの、決して十分な体制とはいかなかった。また、年度途中の退職者も出たが、その補充がなされないままに終わっている。

定着に関する課題は大きい。

2. 職員体制と人材確保(カッコ内は常勤換算数)※小数点2位四捨五入

	管理者	サピ管等	支援員・世話人 保育士等	看護師	調理員 栄養士	その他 (運転士等)	計
27年度 当初	1	1	常勤 15 非常勤 14 (10.4)	常 1 非勤 (0.6)	常勤 1  (給食委託)	常勤 2 非常勤 6 (2.8) (運転委託)	常勤 21 非常勤 21 <b>42 (13.8)</b>
男子	0	0	常勤 0	0	0	(委託)	(委託)
女子	1	1	常勤 15 非常勤 14 (10.4)	常 1 非 1 (0.6)	常勤 1  (給食委託)	常勤 2 非常勤 6 (2.8)	常勤 21 非常勤 21 <b>42 (13.8)</b>
計	1	1	29 (25.4)	2(1.6)	1 (1.9)	6 (2.8)	<b>42 (34.8)</b>
年度中 増減	0	0	常勤 1 (育児休暇) 非常勤-3 (2.0)	0	0	非常勤-1 (0.1)	常勤 1 非常勤-4 (2.1)
男子	0	0	0	0	0	0	0
女子	0	0	常勤 1 (育児休暇) 非常勤-3 (2.0)	0	0	非常勤-1 (0.1)	常勤 1 非常勤-4 (2.1)
計	0	0	常勤 1 (育児休暇) 非常勤-3 (2.0)	0	0	非常勤-1 (0.1)	常勤 1 非常勤-4 (2.1)
28年度 当初	1	1	常勤 20 非常勤 12(8.6)	非 2 (1.3)	常勤 1  (給食委託)	常勤 2 非常勤 6 (3.1) (運転委託)	常勤 25 非常勤 20 <b>45 (38)</b>

※その他…事務・理学療法士・作業療法士・音楽・心理士等を含めます。

### 3. 施設等利用者の状況

#### (1) 利用契約者

利用事業名	児童発達支援		計
定員	80		80
27年度当初契約者数	72		72
年度内新規契約者数	1		1
年度内解約者数	2		2
年度末契約者数	71		71

#### (2) 利用率

利用事業名	児童発達支援	計
年間延契約者数	642	642
年間開所日数	183	183
年間延利用者数	知的：10,413／肢体：431	知的：10,413／肢体：431
利用率	知的：86.3％／肢体 47.1％	知的：86.3％／肢体 47.1％

※児童発達支援の実利用者数による計算

#### (3) 利用者の年齢区分(平成27年7月1日時点)

年齢区分	20才未満	21～25	26～30	31～35	36～40	41～45
男子	50	0	0	0	0	0
女子	22	0	0	0	0	0
計	72	0	0	0	0	0
構成比率	100%	0	0	0	0	0

46～50	51～55	56～60	61～65	65歳以上	計	平均年齢
0	0	0	0	0	50	3.9
0	0	0	0	0	22	3.4
0	0	0	0	0	72	
0	0	0	0	0	100%	

(4)利用者の障害程度(支援)区分(平成27年7月1日時点)

事業名(児童発達支援)

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男子					該当なし	
女子					該当なし	
計						
構成比率					100%	

事業名(入所支援)

区分					計	平均区分
男子						
女子						
計						
構成比率					100%	

(5)援護市町村区分 (平成27年7月1日時点)

市町村区分	船橋市	市川市・習志野市・鎌ヶ谷市・八千代市	東庄町・銚子市・香取市・旭市	その他		計
				県内	県外	
船橋市	72	0	0	0	0	72
						100%

4. 保護者の状況 (平成27年7月1日時点)

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	49	1	0	0	0	0	0	50
女子利用者	21	0	1	0	0	0	0	22
計	70	1	1	0	0	0	0	72
平均年齢	39.0							
最高年齢	55							

## 5. 職員研修について

### ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
合同研修	支援職員	H27.4.1	職員一同	
新人研修	支援職員	H27.6.10	新人職員一同	
内部研修	支援職員	H27.9.16	職員一同	
第1回法人合同研修	支援職員	H27.9.26	職員2名	
第1回事務職会議	事務職員	H27.10.27	事務職員	
新人研修	支援職員	H27.10.31	新人職員一同	
第2回法人合同研修	支援職員	H27.11.28	職員5名	
第3回法人合同研修	支援職員	H28.1.30	職員11名	

### イ、 外部団体等主催研修への参加

研修内容	場 所	実施日	参加者
第62回重度、重症児（者）医療、療育講習会	心身障害児総合医療療育センター	5月 12日	2名
子どもの年代への関わりを考える	さざんか学園	6月	3日 13名
らいおんはーと施設見学	らいおんはーと		10日 1名
県立船橋特別支援学校見学	県立船橋特別支援学校		18日 2名
摂食指導研修会	千葉東病院		20日～21日 1名
摂食指導研修会	千葉東病院	7月	4日 1名
感覚統合入門講座	こども発達相談センター		24日 1名
ちばこどものわ（県作業療法士協会）	千葉市療育センター		25日 1名
医療的ケアが必要な重症心身障害児者の地域生活を支える為に	千葉市文化センター		29日 2名
基礎から学ぶ発達障害、知的障害について	東京ファッションビル（国際展示場）	8月	2日～3日 1名
発達障害、知的障害のある子への保育・療育	東京ファッションビル（国際展示場）		4日～5日 1名
感覚統合講座（第2回）	こども発達相談センター		7日 1名
越谷市児童発達支援センター施設見学	越谷市児童発達支援センター		19日 3名
社会福祉施設等における感染症等に関する研修会	千葉市民会館		25日 1名
摂食指導研修会	千葉東病院		29日 1名
最新の福祉機器視察	国際展示場		10月 7日 1名
講演「寝て食べる方法 ～完全側臥位法のご紹介～」	船橋二和病院	11月	13日 1名
県立船橋特別支援学校公開について	千葉県立船橋支援学校		20日 1名

保育園での栄養士業務と給食提供に学ぶ	ローゼン上山保育園		20日・27日	1名
「給食経営管理における管理栄養士・栄養士への期待 I、II」	東京ビックサイト HOSPEX		26日	1名
講演「支援者として、向き合う力をつけるには」	船橋市東部公民館	12月	1日	2名
児童福祉施設におけるクッキング講座	暮らしのプラザ千葉市消費生活センター		3日	1名
摂食指導研修会「タイプ別で学ぶ症例研修」	千葉東病院	1月	16日	1名
「愛着形成からみた障害児者の育ち、共に育つ」	船橋市中央公民館		29日	1名
摂食指導研修会	千葉東病院	2月	13日	1名
全国児童発達支援協議会 管理者研修会	横浜はまぎんホール		26日	1名
摂食指導研修会	千葉東病院	3月	5日	1名

#### 6. 事故の発生について \*ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考
1	H27.8.10	室内での移動の際、他児の足につまずき転倒。歩行状態に影響あり受診する。骨等に異常なし。	子どもの動線が重ならない様に環境の再設定と誘導を行う。 重なる場合は、必ず保育士が付く事を徹底する。	有	

平成27年度

社会福祉法人さざんか会  
事業報告(統一版)

事業所名

〔笹川なずな工房〕

## 1. 平成27年度事業活動重点事項及び成果

### (1) 作業について

平成27年度の作業売上げは23,451,563円ありました。ほぼ2,400万円です。定員が20名なので、一人あたりで言えば120万円になります。はっきり言ってこれは凄いことです。これは利用者の頑張りもありますがなんととっても支援する職員が頑張っているからこのような数字が残せました。この1年事務・厨房を含めた職員に感謝したいと思います。

但し課題もあります。売上げ額に比して利潤が少ない事です。社会福祉施設は就労系施設であっても利用者に対して豊かな生活を提供する事が第一主眼であり、その手法の一つが生産活動です。そのため利益追求だけが作業の目的ではありませんが、適正な値段はあります。当施設では上記のように2,400万円の売上げがあり、地域での影響力は小さくありません。ある意味地域のパン屋さんの売上げを圧迫してしまっている事実もあります。「笹川なずな工房のパンは安いよね。」お客様の間では評判です。しかしその安さは本来受け取れるべき利用者の工賃低下に繋がります。だからと言って「すぐに値上げをしよう」という事も出来ません。今年1年をかけて、原価や利益率を見直していきます。

27年度も売りに来てほしいという要望が沢山ありました。地域と密着したパン屋さんになっていきます。

### (2) 就労について

平成30年度の施行される3年後の見直し案が、ちらほらと示され始めてきています。特に就労系の事業所では「就労継続B型は高い工賃を支給する事。」「就労移行事業者は就労の実績を作る事。」を強く求められています。実に当たり前のことですが、現実に就労移行事業所の40%では就労実績がないという結果が出ています。就労移行事業の報酬単価は高めに設定されています。その為に高い単価を狙って事業を始めても就労させられなくてB型事業所に変更する事例も増えています。現行制度でも2年間就労実績がない事業所は減額されます。逆に就労実績がある事業所は加算が付きまします。この制度が3年後の見直しで更に強くなると言われています。当施設では平成23年に新法に移行して以来、毎年1名ずつ就労させることが出来、27年度は銚子の嘉平屋さんに就職しました。また、3年後の見直しでも言われているように長く勤められるようにアフターケアも大切です。当施設から就職した利用者は1人も脱落者はいません。本当にまじめに働くと評判です。当施設の利用者は本当に働くことが好きな人に育ててきました。そこが就労の成功の原因だと思います。

### (3) 職員のスキルアップ

福祉は労働集約型産業の代表です。それだけ人（職員）の力に負うものがあります。職員のスキルアップを図るために資格の取得を奨励してきました。支援員は1名を除いて全員介護福祉士の資格を受験して取りました。（新職員は保育士の資格を持っています。）資格を有する事がその支援の内容を保証するものではありません。しかし、資格を

取るためにはそれなりの勉強や努力をしなければ取れません。それは遊びに行きたいとかの気持ちに打ち勝って勉強の時間を作ることです。強制でなく自発的に。笹川なずな工場の職員はそれだけ仕事を真剣に打ち込む気持ちがある職員であるとの証です。このような職員が揃っていることが当施設の最大の強みです。

26年度には介護支援専門員（ケアマネージャー）の資格の挑戦をして、1名が合格をしました。現在ではケアマネージャーの資格は合格率20%以下の難関資格です。よく頑張りました。また料理の非常勤職員も調理師の資格を取りました。

今年度の目標は常勤職員が全員介護福祉士取得、非常勤職員も訪問介護初任者研修取得を目指します。

#### (4) 設備について

基本的な建物および作業のための機械は平成23年度からの3年計画で、整備したので今後7～8年は大丈夫と言えます。本年度、GH隣接地に北総育成園が建築をした農耕作業場〈27年度に建築〉を間借りして、農産作業班が苺の加工をしています。広くなった分効率の良い作業が出来るようになりました。グループホームを含め統一した外観も笹川なずな工房と一体化したデザインであり「野の花公園」の整備を含めて美観地区と呼ばれるようにしていきたいです。

#### (5) 地域との関係について

地元東庄町は人口が1万4千人の小さな町です。農業以外にこれといった産業はありません。有名なのはカブとイチゴです。笹川なずな工場のイチゴは地元の「磯山いちご園」さんより無償で頂いてきます。このイチゴを加工してイチゴジャムを作ります。夏みかんやこのように地場産業とタイアップをして27年度も事業展開をしています。

#### (6) 情報公開

本年度も保護者と施設が協力して、施設運営をしていく為に、毎月2回以上施設発の「お知らせ」を発行してきました。利用者の近況やめまぐるしく変わる福祉制度をその都度情報を提供してきました。当施設は利用者も字を読める人が多いので、毎月の予定も休業日は赤印、特別行事は黄色印をつけ分かりやすい表記になっており、利用者にとっても大切な情報源となっています。

## 2. 職員体制と人材確保(常勤換算数)小数点2位四捨五入

	管理者	サビ管 等	支援員・世話 人・保育士等	看護師	調理員・栄養士	その他(事務 員)	計
27年度当初	1	1	6.6	0	0.6	1	9.2
男子			2 ( )	0 ( )	( )	( )	( )
女子			4.6 ( 1 )	( )	( 1 )	1 ( )	( )
計	1	1	6.6	0	0.6	1	9.2
年度中増減	0	0	1.4	0	0	0	0
男子	0	0	0.6 ( +1 )	0 ( )	0 ( )	0 ( )	0 ( )
女子	0	0	-1 ( -1 )	0 ( )	0 ( )	0 ( +1 )	0 ( )
計	0	0	-0.4	0	0	0.6	0.2
28年度当初	1	1	6.2 ( 2 )	0 ( )	0.6 ( 1 )	1.6 ( 2 )	9.4 ( 3 )

\*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を( )内に別記する。

## 3. 施設等利用者の状況

### (1)利用契約者

利用事業名	就労移行	就労継続 B			計
定員	6	14			20
27年度当初契約者数	6	20			26
年度内新規契約者数	1	0			1
年度内解約者数	1	2			3
年度末契約者数	6	18			24

### (2)利用率

利用事業名	就労移行	就労継続 B			計
年間延契約者数	1,815	4,375			6,119
年間開所日数	269	269			269
年間延利用者数	1,744	4,954			
利用率	6.5	18.4			

## (3)利用者の年齢区分(平成28年4月1日時点)

年齢区分	20才未満	20~25	26~30	31~35	36~40	41~45
男子	1	4	4	1	1	1
女子	1	3	2	2	2	1
計	2	7	6	3	3	2
構成比率	7%	27%	23%	12%	12%	7%

46~50	51~55	56~60	61~65	65歳以上	計	平均年齢
2	0	1	0	0	15	31.9
0	0	0	0	0	11	29.3
2	0	1	0	0	26	30.8
7%	0%	4%	0%	0%	100%	

## (4)利用者の障害程度(支援)区分(平成28年4月1日時点)

事業名(就労移行)

区分	2	3	4	5	区分なし	計	平均区分
男子	1	0	0	0	4	5	—
女子	0	0	0	0	1	1	—
計	1	0	0	0	5	6	—
構成比率	17%	0%	0%	0%	83%	100%	

事業名(就労継続B型)

区分	2	3	4	5	区分なし	計	平均区分
男子	1	5	1	1	2	10	—
女子	4	2	2	0	2	10	—
計	5	7	3	1	4	20	—
構成比率	25%	35%	15%	5%	20%	100%	

## (5)援護市町村区分

市町村区分	船橋市	東庄町	銚子市	香取市	その他		計
					県内	県外	
男	0	2	3	9	0	1	15
女	1	4	1	5	0	0	11
合計	1	6	4	14		1	26

#### 4. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	10	0	2	2	0			14
女子利用者	7	1	1	0	1			10
計	17	1	3	2	1			24
平均年齢	60	59	58	64	86			63
最高年齢	73	59	74	64	86			86

#### 5. 職員研修について

##### ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
法人事務研修	事務員	10/27	2	
工賃査定会議	支援員	毎月実施	7	事例研究

##### イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
鹿島食品	鹿島食品展示会	6/14	2	年2回
千葉県福祉協会	施設長宿泊研修	11/16	1	
千葉県福祉協会	給食研修	10/30	1	北総育成園で実施
日精研	春季講座	3/25	1	他年2回
鹿島食品	食品展示会	10/14	1	他1回
千葉県	食品衛生講習	6/3	1	他1回

#### 6. 事故の発生について \*ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考

平成27年度  
社会福祉法人さざんか会  
事業報告(統一版)  
事業所名  
〔カメラリアハウス〕

## 1. 平成27年度事業活動重点事項及び成果

### (1) 就労支援B型事業の工賃向上

ここ数年取り組んでいる工賃の向上に関してなかなか結果の出せない状況が続いていた。さまざまな要因が絡み合っている現実があるものの数字という結果を出すのは使命であり、取り組みを続けていく必要性があった。しかし現実的には仕事量、納期の調整などはやはり困難なものであるうえ、下請け作業の工賃はさほど向上を望めないものがあり結果的には望む賃金ラインには追いつくことはできなかった。また、製菓に力を注ぐとその分の戦力が抜けてしまうという状況があり、下請け作業に力を注ぐにあたっては様々な面での調整が必要となってきた。

### (2) 製菓の販売量および質の向上

就労支援事業として伸びが望めるのは製菓作業であるため販路の拡大を掲げてきたが、製造開始時に設定した販売価格が適正でなかったためいくら販売量を増やしても売り上げの向上につなげられない現実があった。そこで価格改定を図り、1本を12等分し50円で販売していたものを8等分に厚さを増し、1切れ100円での販売に変更した。変更の際して購入者からの意見も挙がるかと思われたが、特に耳にすることもなく売り上げが減少してしまうこともみられなかった。現状としてはもっと販売量を増やしたいが生産体制に限界があるので、販売時期を調整するなどの課題が生じている。

また年間を通して数回製菓に関する指導を受ける機会を持ち、その結果味が格段に上がった印象がある。原材料を見直すことにより原価の上昇も考えられ、それに対する検討も必要になっていくものである。

他の商品開発の必要性もあり、それに関する努力も講じてきたが結果的には現状の製菓作業の忙しさに追われ結果は残せないままだった。しかし今後の商品展開は工賃向上の鍵になるかと思われるので、今後は積極性を持って取り組んでいく。

### (3) 利用者の高齢化に対する対応

他事業所も抱えている問題として利用者の高齢化が挙げられる。それと同時に当然生じるのが保護者の高齢化に対する問題である。実際27年度に高齢の母親が救急搬送されご本人の生活が危ぶまれる事態があった。周囲の協力により結果的には法人のグループホームに入居し事なきを得たが今後も同様の事態が起こる可能性があると思われる。そういった際に適した対応が図れるように普段からの利用者及び家族の状況の把握をしていく必要があると思われる。また、各関係機関との連携に関しても意識をもっていく必要がある。

### (4) 作業グループの細分化

26年度からの持越し課題として利用者の特性と現存のグループ編成の適合の問題があった。27年度の7月より本部事務所が移転することでスペースが生じ、そこを支援室として利用が可能となったため現状のグループ編成の変更が望ましいと思わ

れる利用者に移動してもらった。結果、全般的に目覚ましい効果が生じそれぞれが生き生きと日々を送られ、若い利用者に際しては個別の対応が効きやすいため、成長と見られる様子が多々見られていた。消防署の許可も取り新年度からは新たなるグループとして独立しより適した活動を展開していく。

(5) 利用者の状況に合わせた送迎対応

送迎場所への移動が困難、時間がずれば登所が見込めるなど利用者、家族のそれぞれの事情に対し一概に答えを出してしまうのではなく、全体の動きに対して問題が生じないようだったら可能な限り柔軟な対応を図り、結果的により多くの利用者が登所できるよう努めてきた。

(6) 他事業所に対して協力体制の常習化

以前より続けているが他事業所に対しての協力は必然的なものであり、当事業所の職員に対しても見聞を広める良い機会と考えている。今後も当事業所および個人に影響が及ばない限りではあるものの協力体制をとっていき、各事業所協力体制のモデルケースになっていけたらと望む。

2. 職員体制と人材確保(常勤換算数)\*小数点2位四捨五入

	管理者	サビ管 等	支援員・世話 人・保育士等	看護師	調理員・栄養士	その他(運転 士等)	計
27年度当 初	1	1	12	1		2	16
男 性	1	1	4 (3.0)	( )	( )	1 (0.4)	5 (3.4)
女 性			8 (5.3)	1 (0.1)	( )	1 (0.9)	10 (6.4)
計	1	1	12	1		2	17
年度中増減							
男 性	1	兼務	5 (4.0)	( )	( )	1 (0.4)	7 (4.4)
女 性			7 (5.2)	1 (0.1)	( )	1 (0.9)	9 (6.2)
計	1	(1)	12	1		2	16
28年度当 初	1	(1)	12 (9.2)	1 (0.1)	( )	2 (1.3)	16 (10.6)

\*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を( )内に別記する。

### 3. 施設等利用者の状況

#### (1) 利用契約者

利用事業名	生活介護	就労継続 B			計
定員	23	12			35
26年度当初契約者数	29	13			42
年度内新規契約者数	2	0			2
年度内解約者数	1	0			1
年度末契約者数	30	13			43

#### (2) 利用率

利用事業名	生活介護	就労継続 B			計
年間延契約者数	7470	3237			10707
年間開所日数	249	249			249
年間延利用者数	5778	2714			8497
利用率	77.3%	83.8%			79.3%

#### (3) 利用者の年齢区分(平成28年3月31日時点)

年齢区分	20才以下	21~25	26~30	31~35	36~40	41~45
男性	4	11	0	0	9	3
女性	1	1	1	0	2	3
計	5	12	1	0	11	6
構成比率	12%	28%	2%	0%	25%	14%

46~50	51~55	56~60	61~65	66歳以上	計	平均年齢
2	0	0	1	1	31	33.2
0	2	1	1	0	12	42.0
2	2	1	2	1	43	35.6
5%	5%	2%	5%	2%	100%	

#### (4) 利用者の障害程度(支援)区分(平成28年3月31日時点)

事業名(生活介護)

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男性	2	11	9	2	24	4.46
女性	2	3	0	1	6	3.83
計	4	14	9	3	30	4.33
構成比率	13.3%	46.7%	30%	10%	100%	

事業名(就労継続支援B型)

区分	1	2	3	4	計	平均区分
男性	1	1	1	3	6	2.43
女性	0	3	0	0	3	2.6
計	1	4	1	3	9	2.51
構成比率	8%	30.7%	8%	22.6%	69.3%	*非該当4名

(5) 援護市町村区分

市町村区分	船橋市	市川市・習志野市・鎌ヶ谷市・八千代市	東庄町・銚子市・香取市・旭市	その他		計
				県内	県外	
男性	28	2		1		31
女性	9	3				12
計	37	5		1		43
構成比率	86%	12%		2%		100%

4. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	24	1	6					31
女子利用者	7		3	1			1	12
計	31	1	9	1			1	43
平均年齢								
最高年齢								

5. 職員研修について

ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
全体研修	全職員	27年9月26日	6人	キャリア別研修
全体研修	全職員	27年11月28日	6人	キャリア別研修
法人主催研修	全職員	27年12月1日	6人	〇氏講演会
全体研修	全職員	28年1月30日	5人	個別支援計画について

イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
チーサ	パン教室	27年6月7日	2人	
千葉県障害者就労	振興センター第	27年5月29日	1人	

事業振興センター	10回総会			
千葉県知的障害者福祉協会 権利擁護委員会	虐待防止及び身体拘束廃止に向けた研修会	27年6月8日	1人	進行の手伝いで参加
千葉県知的障害者福祉協会	第1回日中活動支援部会	27年6月15日	1人	
千葉県障害者就労事業振興センター	食品表示対応セミナー	27年6月18日	1人	
千葉県障害者就労事業振興センター	千葉県賃金向上計画事業所向け説明会	27年6月24日	1人	
千葉県障害者就労事業振興センター	工賃向上計画に必要な管理会計研修	27年6月30日	1人	
千葉県社会福祉センター	福祉施設の会計(簿記)研修	27年7月10日	1人	
千葉県知的障害者福祉協会 障害者支援施設部会	施設長危機管理研修会	27年8月31日	1人	
千葉県知的障害者福祉協会 日中活動支援部会	日中活動支援部会施設長等研究会議	27年9月10日、11日	1人	
千葉県健康福祉部 障害福祉課	障害者虐待防止マネージャー養成研修	27年10月6日	1人	
千葉県知的障害者福祉協会	施設長研修会	27年11月16日、17日	1人	
千葉県社会福祉協議会	虐待防止、権利擁護専門研修	27年12月7日	1人	
千葉県社会福祉協議会	千葉県虐待防止、権利擁護専門研修	28年1月20日	1人	
千葉県社会福祉協議会	千葉県虐待防止、権利擁護専門研修	28年1月26日	1人	
千葉県障害者就労事業振興センター	はーとふるメッセ食品部門審査会	28年2月5日	1人	
全国手をつなぐ育成会連合会	全国事業所研修大会	28年2月20日、21日	1人	

6. 事故の発生について \*ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考
1	8月19日	てんかん発作の際、担当職員が不慣れなため対応に戸惑い救急車を要請。病院へ搬送はせずに回復	後日、てんかん発作に関する資料を作成し各職員に配布	無	判断としては正解と職員に到達
2	10月22日	公園にて散歩中にランニングを望まれたので職員と走り出すも転倒、両手のひら、あごに裂傷	今後ご本人が希望された際には、事故があったことをお伝えし控えてもらう	無 (軽傷のため)	事業所にて手当をし、ホーム、自宅に報告

平成 27 年度  
社会福祉法人さざんか会  
事業報告(統一版)

事業所名 〔魔法のランプ(居宅介護部門)〕

## 1. 平成 27 年度事業活動重点事項及び成果

### (1) 介護給付事業

#### (ア) 居宅介護事業（身体介護・家事援助・通院等介助）

- 居宅において、入浴、排せつ及び食事等の介護、調理、洗濯及び掃除等の家事並びに生活等に関する相談及び助言、その他の生活全般にわたる援助を行いました。又、病院への通院のための介助を行いました。

#### (イ) 重度訪問介護事業

- 重度の肢体不自由者で常に介護を必要とする人に、自宅で入浴、排泄、食事の介護、外出時における移動支援などを総合的に行いました。

#### (ウ) 行動援護事業

- 自己判断が制限されている人が行動するときに、危険を回避するために必要な支援、外出支援を行いました。

#### (エ) 同行援護事業

- 視覚障害により移動に著しい困難を有する障害者（児）に対し、移動時及びそれに伴う外出先において、必要な視覚的情報の支援や移動の援護、排泄・食事等の介護、その他外出する際に必要となる援助を実施してきました。

### (2) 地域生活支援事業

#### (オ) 移動支援事業（移動介護）

- 社会生活上必要不可欠な外出、余暇活動等の社会参加のための外出等、外出への支援を行ないます。内容として、個別対応のサービスのみを実施しています。朝・夕の送迎支援を実施してきました。

#### (カ) 移動支援事業（通学・通所支援）

- 平成 27 年 6 月 1 日から、保護者の方が付添できない場合や社会的理由の為、他の送迎手段や付添いが得られない方を対象に通学・通所の支援を実施しています。希望者は多いのですが、毎日入ることが出来ないのので、依頼数は数名しかありません。また他にも保護者の方一人での対応が困難な場合にもヘルパーを付き添って、ご本人様＋保護者様＋ヘルパーの 3 人での通学通所も可能です。

### (3) 宿泊サービス

- 当事業所の私的サービスです。当事業所内での宿泊を実施しています。理由

はご家族のレスパイト的な要素で宿泊されることが多くありました。

(4)福祉有償運送事業

- 当事業所にある自家用車2台(ワゴン R、車椅子仕様車スロープタイプ)を利用して、サービス時の移動や送迎などに利用しています。基本的には上記のサービスを絡めてご契約者様にはお願いし、実施しています。
- 成人利用者様限定で実施しています。
- 車を利用しての上記の事業を併用するニーズが有り、利用率が若干増えています。

(5)成果について

- (1)~(4)までの事業の成果については、別紙 1~7 を参照。

2. 職員体制と人材確保(常勤換算数)\*小数点2位四捨五入

	管理者	サビ提等	支援員・世話人・保育士等	看護師	調理員・栄養士 事務員	その他(登録ヘルパー等)	計
27年度当初	1	2	8		1	10	20
男子	1 <small>サビ提、支援員兼務</small>	2 <small>支援員兼務</small>	7 ( 2 )	( )	( )	5 ( 5 )	12 ( 5 )
女子			3 ( 1 )	( )	1 ( 1 )	6 ( 6 )	8 ( 6 )
計	1	2	10		1	11	20
年度中増減			+2			+1	
男子	1 <small>サビ提、支援員兼務</small>	2 <small>支援員兼務</small>	7 ( 2 )	( )	( )	6 ( 6 )	16 ( 9 )
女子			3 ( 1 )	( )	1 ( 1 )	5 ( 5 )	8 ( 6 )
計	1	2	10		1	11	24
年度中増減			+1			-1+1	+1
28年度当初	1	2	10 ( 3 )	( )	1 ( 1 )	11 ( 11 )	24 ( 15 )

\*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を( )内に別記する。

※ カナスギセブン世話人及び、世話人補助も含む

### 3. 施設等利用者の状況

#### (1) 利用契約者

利用事業名	障害福祉サービス事業				地域生活 支援事業	計
	居宅介護	重度訪問介護	行動援護	同行援護	移動支援	
定員						
27年度当初契約者数	72	8	24	5	173	282
年度内新規契約者数	1	0	3	0	3	7
年度内解約者数	8	0	0	0	0	8
年度末契約者数	65	8	27	5	176	281

※ 障害福祉サービス事業と地域生活支援事業の契約重複者含む

#### (2) 利用率

利用事業名	居宅介護	重度訪問介護	行動援護	同行援護	移動支援	計
年間延契約者数	552	96	300	60	1,872	2,886
年間開所日数	365	365	365	365	365	365
年間延利用者数	3,358	1,407	710	90	2,224	7,789
利用率	1.7	4.02	0.65	0.41	0.33	0.74

#### (3) 利用者の年齢区分(平成28年4月1日時点)

年齢区分	0~5	6~10	11~15	16~18	19~20	21~25
男子	0	1	3	5	12	22
女子	0	0	2	1	2	2
計	0	1	5	6	14	24
構成比率	0	0.6	2.8	3.4	8.0	13.6

26~30	31~35	36~40	41~45	46~50	51~55	56~60
5	12	23	27	13	3	2
7	2	7	11	9	3	0
12	14	30	38	22	6	2
6.8	8.0	17.1	21.6	12.5	3.4	1.1

61~65	65歳以上			計	平均年齢
1	0			129	
1	0			47	
2	0			176	
1.1	0			100%	

## (4) 利用者の障害支援区分(平成28年4月1日時点)

事業名( 居宅介護、重度訪問介護、行動援護、同行援護 )

区分	なし	2	3	4	5	6	計	平均区分
男子	2	0	4	10	12	22	50	
女子	1	1	0	2	2	12	18	
計	3	1	4	12	14	34	68	
構成比率	4.4	1.5	5.9	17.6	20.6	50.0	100%	

## (5) 援護市町村区分

市町村区分	船橋市	市川市・習志野市・鎌ヶ谷市・八千代市	東庄町・銚子市・香取市・旭市	その他		計
				県内	県外	
男子(成人)	120	2		1		123
女子(成人)	42			2		44
男子(児童)	6					6
女子(児童)	3					3
合計	171	2		3		100%

## 4. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	74	4	28	9	3			118
女子利用者	38	3	15	2	0			58
計	112	7	43	11	3			176
平均年齢								
最高年齢								

## 5. 職員研修について

## ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
新人研修会	直接処遇S	27年6月10日	1人	ていさくさべ施設長H氏講演会
第1回合同研修会	直接処遇S	27年9月26日	6人	階層別研修
新人研修会	直接処遇S	27年10月31日	5人	センターつくもM氏講演会
第2回合同研修会	直接処遇S	27年11月28日	6人	階層別研修

○氏講演会	直接処遇S	27年12月1日	6人	
さざんかキッズ見学研修	直接処遇S	28年1月27日	1人	
第3回合同研修会	直接処遇S	27年1月30日	6人	一般社団法人スターアドバンス E氏講演会
第5回船橋地区グループホーム事業所研修会	直接処遇S	27年3月11日	1人	

#### イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
千葉県知的障害者福祉協会	虐待防止及び、身体拘束廃止に向けた研修会	27年6月8日	3人	
NPO 法人ラフト	ざだんかいv o 1.4	27年7月3日	1人	
株式会社ベストサポート	バンブーゼミナール「本気の一人から始める」	27年10月3日	1人	
千葉県健康福祉部 障害福祉課	障害者虐待防止・権利擁護専門研修(障害者虐待防止マネージャー養成研修)	27年10月13日	2人	
千葉県健康福祉部 障害福祉課	サービス管理責任者(児童発達支援管理責任者)研修	27年10月14日	1人	
株式会社ベストサポート	放課後等デイサービス「3ダーバンブー」見学	27年10月14日	1人	
千葉県健康福祉部 障害福祉課	障害者虐待防止・権利擁護専門研修(障害者虐待防止マネージャー養成研修)	27年11月2日	2人	
NPO 法人船橋福祉相談協議会	障害者差別解消法って、なあに?	27年11月7日	1人	
千葉県健康福祉部 障害福祉課	千葉県児童発達支援管理責任者研修(分野別演習)	27年12月1日~27年12月2日	1人	
地域づくりフォーラム 実行委員会	第8回地域づくりフォーラム「障害者差別解消法を活かす」~差別のない未来を目指して~	27年12月10日	2人	
NPO 法人ラフト	ざだんかいv o 1.5	28年1月8日	3人	
千葉県社会福祉協議会	障害者虐待防止・権利擁護専門研修	28年1月20日	1人	

NPO 法人ラフト・魔法のランプ 合同開催	ヘルパー研修「ガイドヘルパーとして知っておきたい障害者差別解消法について」	28年2月6日	7人	中核支援センター長生ひなた所長、S氏講演会
介護労働安全センター千葉支所	同行援護従業者養成研修 一般課程	28年2月9、16、17日(3日間)	2人	

6. 事故の発生について \*ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考
1	27年4月7日	送迎場所の間違い	事前確認の徹底	無	
2	27年4月25日	移動支援契約書、委任状、受給者証コピー、決定通知書コピーの紛失未遂	貴重品は肌身離さないようにし、長く持ち歩かないようにする。	有	
3	27年4月29日	下り階段での転倒事故	なるべくエスカレーター、エレベーターを使用する。	無	
4	27年5月6日	帽子紛失の件	ご自身のカバンに仕舞うように促す。	無	
5	27年5月13日	療育手帳、紛失未遂	貴重品はすぐに正しい場所に保管する。	無	
6	27年5月31日	ご依頼メール受付放置、受諾忘れの件	すぐにランプのPCや他のスタッフ携帯に転送する。	無	
7	27年7月9日	ご利用者様を抱えている際に転倒してしまった件	理由がヘルパーの体調不良だったので、基本そのヘルパーの支援は外す。	無	
8	27年7月23日	送迎先バス停の間違い	スタッフが知らなかったので、必ず分からないことは他のスタッフに確認をすること。	無	
9	27年7月24日	ご依頼メール受諾漏れ	今回、一人で対応してしまった為、複数人で対応する様にしていく。	無	
10	27年8月7日	千葉駅階段にて転倒	手すりに誘導するか、エスカレーターエレベーターを使用する。	無	
11	27年8月12日	宿泊用薬と予備用薬の取り間違いによる誤飲	ご家族の確認を待ち、一人で判断しない事。	無	
12	27年9月3日	平地で転倒	ヘルパーが両腕を塞がないように注意をする。	無	
13	27年9月21日	平地でヘルパーと共に転倒	路面の状況に注意する。	無	
14	27年10月25日	サービス終了時間の伝え間違い。	ランプ携帯の所持をする。	無	
15	27年12月11日	サービス中、ご利用者様の顔に原因不明の痣を発見	出発時なかった物なので、不快に思われないように常に観察をする。	無	

16	27年12月 13日	スタッフ寝坊によるサービス開始遅れ	自己責任である為、目覚まし時計をセットし、緊張感を持って臨む。	無	
17	27年12月 15日	依頼表をご利用者様ご家族から受け取り、ランプに提出忘れ。	受け取った時点で、携帯メールで一斉送信をして他者にも把握をしてもらう。	無	
18	27年12月 16日	スタッフがご利用者様より怒りをかけてしまう。	声掛けが悪かったので、ご本人に対しての対応を見直す。	無	
19	27年12月 24日	ヘルパーに対してサービス開始時間の確認メールの誤送信。	再度メール内容の確認を忘れないようにする。	無	
20	27年12月 31日	ご利用者様の急な走り出しと、店内での騒動	ご自宅に戻られ、朝からイライラされていたようで、ご本人の気持ちをくみ取れなかった。そういう時は待つような対応はせずに早めに行動をする。	無	
21	28年1月2 日	療育手帳の返却忘れ	貴重品袋の中をきちんと確認して返却をする。	無	
22	28年1月3 日	サービス終了時間の勘違い	確認メールの確認の徹底と事前確認の徹底。	無	
23	28年1月7 日	財布と療育手帳の返却忘れ	サービス前後に貴重品袋の確認の徹底をする。	無	
24	28年1月 10日	サービス開始時間の勘違い	メールの確認をきちんとする。	無	
25	28年1月 10日	緊急な依頼を調整して慌ててしまった為にスタート時間の連絡ミス。	ご家族とヘルパーに間違った内容を伝えたので、きちんと確認して送る様にする。	無	
26	28年1月 23日	送り先でご本人様へ財布の返却忘れ	ヘルパーの腹痛による注意力散漫と貴重品袋の確認の徹底をする。	無	
27	28年1月 25日	サービス開始時間の間違い	時間と支援の注意点の確認を徹底して行なう	無	
28	28年1月 26日	サービス中のけいよう前にて交通事故。	飛び出しをしないようにすぐに渡らず右に折れて、歩く様に促す。	有	
29	28年1月 30日	私用によるサービス開始時間の遅れ	予定する時間の電車に乗れず遅刻。早め早めの行動をとる様に注意する。	無	
30	28年2月 16日	けいよう近隣住宅への不法侵入	他人様の家の敷地内に入った場合は、敷地外に出て頂く様にすぐに誘導する。	無	
31	28年2月 20日	千葉駅券売機に手帳を置き忘れ、紛失未遂	改札を通る時は必ず手帳を見せる習慣をつける。	無	
32	28年2月 20日	次サービスの忘れ	必ず終了報告をするよう努めると共にメールの確認もする。	無	
33	28年3月	ボート操作中、ヘルパーの鞆からお金	鞆のチャックは、必ず締める。手の	無	

	13日	の入ったポーチを池に投げてしまった。	届かない所に置く。		
34	28年3月 20日	終了時間確認ミスによる早めの帰宅	久しぶりに入るサービスについては、メールの確認をし時間の確認をする。	無	
35	28年3月 29日	寝坊の為にサービス中止	自己責任となるので、きちんと時間に起きる様にする。	無	

平成27年度  
社会福祉法人さざんか会  
事業報告(統一版)

事業所名〔DDホームズ〕

## 1. 平成27年度事業活動重点事項及び成果

### (1) 支援のあり方

一人ひとりの意思が尊重され「自分らしく生きる」ことや、目の前の障害のあるご本人の思いに寄り添い「その人らしい暮らし」を作ることが視点とする。そんな支援のあり方を実践してきました。また、個々の特性や状況を把握し最も必要と思われるニーズを選択し反映させる為に、個別支援計画で具体的なところを記述することで、その都度立ち返り検証することにも努めてきました。

### (2) 安全面について

一般的に生活の場面での事故などは家屋内での発生率が高いとされています。特に入浴時の介助には細心の注意を払ってきました。また、移動時における僅かな段差への注意など、建物の構造上の問題においても配慮してきました。例えば転倒の際にケガが予測される箇所にラバーを付けたり等々。しかしながら、ホームによっては打撲や裂傷などの報告を受けています。今後は改善されるように対処していきたいと思えます。

### (3) 健康について

日々の調子については、ご家族や看護職員や日中関わっているスタッフとの情報交換を経て、体調の変化等に目を向けてきました。今後は年齢を重ねるにつれて、健康面については更なる配慮が必要になってくると思われるので、寒暖の差や季節ごとにきめ細やかな支援が求められると考えます。有意義な日常生活をつつがなく送るには、健康でいられることが最も大切だと考えます。

### (4) 食事提供について

平成23年の初夏に食中毒の発生があり、短期間ながら閉鎖を余儀なくされたホームがありました。その苦い経験を踏まえ、保健所に依頼して、専門家を招いての衛生講習を実施しました。ホームに携わる全員が受講することで、調理の際の安心安全の意識を高めてきました。おいしく食事を摂ることは、ホームでも健康で楽しく生活を送る上での基本となります。その点を踏まえ、各ホームでバラエティに富んだ食の提供を日々継続してこられたと思えます。

### (5) 防災と設備について

数年前に高齢者グループホームにおいて火災による死亡事故が発生したことから障害者のグループホームでも防災対策により高い意識で取り組む必要があります。

災害時等に備え、消防計画に基づいて、災害の予防と人命の安全を最優先に考えています。各ホーム年2回の避難訓練の実施や、日常の点検、非常食等の管理、設備面での取り組みなども行ってきました。また、消防の立ち入り調査も順次実施されてきました。その際の指摘事項に関しては、提携の防災関連会社のバックアップを受けつつ、その都度対処してきました。

## 2. 職員体制と人材確保(常勤換算数)※小数点2位四捨五入

	管理者	サビ管 等	支援員・世話 人・保育士等	看護師	調理員・栄養士	その他(運転 士等)	計
27年度当初	1	3	22				26
男子	1	2	8 ( 3 )	( )	( )	( )	11 ( 3 )
女子		1	14 ( 13 )	( )	( )	( )	15 (13)
計	1	3	22				26
年度中増減			-1				-1
男子			±0 ( ±0 )	( )	( )	( )	±0 ( ±0 )
女子			-1 ( -1 )	( )	( )	( )	-1 (-1)
計	1	3	21				25
28年度当初	1	3	22 ( 16 )	( )	( )	( )	26 ( 16 ) 常勤換算 ( 7.9 )

\*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を( )内に別記する。

## 3. 施設等利用者の状況

### (1) 利用契約者

利用事業名	長尾ホーム	ゆーもあ	グーテン	おり家	まあしい
定員	4	4	4	4	3
27年度当初契約者数	0	0	3	0	0
年度内新規契約者数	0	0	1	0	0
年度内解約者数	0	0	0	0	0
年度末契約者数	4	4	4	4	3

本間ホーム	ミキミキ	こんね	さざんか荘	よかよか	計
3	6	4	4	4	40
0	0	0	0	4	39
0	0	0	0	1	2
0	0	0	0	1	1
3	6	4	4	4	40

## (2)利用率

利用事業名	長尾ホーム	ゆーもあ	グーテン	おり家	まあしい
年間延べ契約者数	4	4	4	4	3
年間開所日数	366	366	366	366	366
年間延べ利用者数	1416	904	724	813	835
利用率	97%	62%	50%	56%	76%

本間ホーム	ミキミキ	こんね	さざんか荘	よかよか	計
3	6	4	4	4	40
366	366	366	366	366	366
1072	894	1121	781	1302	9862
98%	41%	77%	53%	89%	67%

## (3)利用者の年齢区分(平成28年3月31日時点)

年齢区分	20歳以下	21~25	26~30	31~35	36~40	41~45
男子	1	0	1	1	4	10
女子	0	0	1	0	0	3
計	1	0	2	1	4	13
構成比率	2.5%	0%	5%	2.5%	10%	32.5%

46~50	51~55	56~60	61~65	65歳以上	計	平均年齢
12	2	0	0	2	33	44.8
2	1	0	0	0	7	44.4
14	3	0	0	2	40	44.6
35%	7.5%	0%	0%	5%	100%	

## (4)利用者の障害程度(支援)区分(平成28年3月31日時点)

## 事業名(共同生活援助)

区分	なし	1	2	3	4	5	6	計	平均区分
男子	2	0	5	5	8	7	6	33	3.89
女子	0	0	0	2	3	1	1	7	4.14
計	2	0	5	7	11	8	7	40	3.93
構成比率	5%	0%	13%	17%	28%	20%	17%	100%	

## (5) 援護市町村区分

市町村区分	船橋市	市川市・習志野市・鎌ヶ谷市・八千代市	東庄町・銚子市・香取市・旭市	その他		計
				県内	県外	
	39	0	0	1	0	40
						100%

## 4. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	16	0	6	8	2	0	1	33
女子利用者	2	0	3	2	0	0	0	7
計	18	0	9	10	2	0	1	40
平均年齢								
最高年齢								

## 5. 職員研修について

## ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
食品衛生	全職員	27年6月5日	17名	
虐待防止	全職員	27年7月3日	14名	
虐待防止	全職員	27年12月4日	17名	
法人全体研修	全職員	28年1月30日	5名	
虐待防止	全職員	28年3月11日	17名	

## イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
船橋市障害者虐待防止センターはーぷ	グループホームにおける虐待防止について	27年9月9日	8名	
船橋福祉相談協議会	障害者差別解消法について	27年11月7日	9名	
船橋市消防局	防火管理責任者講習	27年11月25、26日	1名	
千葉県障害者グループホーム等支援	グループホームで暮らすという	28年1月24日	4名	

事業連絡協議会	こと			
千葉県グループホーム等支援事業	サービス管理責任者フォローアップ研修	28年2月2日	2名	
々	々	28年2月3日	1名	

6. 事故の発生について \*ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考
1	H27.9.5	利用者の離脱。	利用者の行動を把握する。	無	
2	H27.9.30	利用者自身が額をテレビ台にぶつける。	いつも新聞を読むときに座る場所であったため移動していただく。	無	
3	H27.10.3	休日に単独で外出したまま深夜 1 時過ぎまで帰宅せず。	外出前に行先と帰宅時間を確認する。 利用者の写真を準備しておき、捜索が必要な時の資料とする。	有	
4	H27.12.30	薬を渡し忘れてしまい、服薬できなかった。	服薬後の空袋を必ず確認する。	有	
5	H28.2.7	自室内のストーブで足に軽度の火傷を負う。	個室内でのストーブ使用は中止してエアコンに変更する。	無	

平成 27 年度  
社会福祉法人さざんか会  
事業報告(統一版)

事業所名 〔のまのまホームズ〕

## 1. 平成27年度事業活動重点事項及び課題

### (1) 入居者支援と職員体制

- ・研修の機会が少なく現状のホーム職員体制は、業務代替え要員が不足しているの  
で、GH 事業に従事する職員の増員が課題。法人全体で協議が必要と考えます。
- ・特定の住居の話題でなく、同一ホームでの勤務が長くなると、人(入居者)を含めた  
環境が一定してしまうので、気づきが少なくなってしまう傾向が全体的に伺えま  
す。次年度は女性ホーム【にこにこ】【マリリン】が場所を移して一体運営を行う予  
定です。職員のチームワークにも課題が出てくると思いますが、新たな環境や職  
員体制でよりよい支援につなげたいと考えます。

### (2) 食事提供について

- ・世話人の力量により住居によって食事内容が左右されます。長い目で考えると  
セントラル化した食事提供方法も検討したいと考えています。

### (3) グループホームにおける防災

- ・火災を想定した避難訓練は行ってきましたが、次年度は地震災害を想定した避  
難・誘導訓練を実施したいと考えます。具体的には可能な住居においては、災害  
時に避難所として想定される近隣の学校等まで入居者移動することも訓練内に組  
み入れたいと考えます。

### (4) 権利擁護とより良い支援の向上に向けて

- ・法人後見等の後見制度をご利用される入居者の増えてきました。生活状況や健康  
面の報告・相談等も個別においてはかなり踏み込んだケースも出てきました。  
後見人が行う業務を気づいたらいつの間にか世話人が代行しているような事がな  
いように職員に後見制度の意味を理解してもらうことが必要です。

### (5) サービス管理責任者について

- ・現在、世話人業務を兼任して行っていますが業務範囲の広がりや、時間的制約を  
考えた時に、現状の世話人との兼務体制から管理者との兼務または、専任体制に  
移行する時期かと考えます。入居者の方お一人ひとりの地域生活の拠点として GH  
の役割を推進するためにも次年度は模索したいと考えます。

## 2. 職員体制と人材確保(常勤換算数)※小数点2位四捨五入

	管理者	サビ管	世話人	生活支援員	計
27年度当初	1	1	7	4	13
男性	1	1	4(4)	2(2)	8(6)
女性			3(3)	2(1.4)	5(4.4)
計	1	1	7(7)	4(3.4)	13
年度中増減					
男性					
女性				1(1)	
計					
28年度当初	1	1	7(7)	5(4.4)	
					14(11.4)

## 3. 施設等利用者の状況

### (1) 利用契約者

利用事業名	ときわ	ジャントニオ	マリソ	どどんぱ	にこにこ	計
定員	5	7	3	4	3	22
27年度当初契約者数	5	7	3	4	2	22
年度内新規契約者数	0	0	0	0	0	0
年度内解約者数	0	1	1	0	1	2
年度末契約者数	5	6	2	4	3	20

### (2) 利用率

利用事業名	ときわ	ジャントニオ	マリソ	どどんぱ	にこにこ	計
年間延契約者数	1.825	2.366	910	1.460	1.095	7.291
年間開所日数	365	365	365	365	365	365
年間延利用者数	1.234	1.940	556	1.407	1.092	6.229
利用率(%)	67	85	46.3	96	99	85

### (3) 利用者の年齢区分(平成28年4月1日時点)

年齢区分	26~30	31~40	41~50	51~60	61~	計
男性	4	5	4	1	1	15
女性	0	1	2	1	1	5
計	4	6	6	2	2	20
構成比率	20%	30%	30%	10%	10%	100%

(4) 利用者の障害程度(支援)区分(平成28年4月1日時点)

事業名(共同生活援助)

区分	2	3	4	5	6	計	平均区分
男性	2	0	8	3	2	15	4.2
女性	1	0	0	2	2	5	4.8
計	3	0	8	5	4	20	4.3
構成比率	15%	0%	40%	25%	20%	100%	

(5) 日中活動

	男性	女性	合計
生活介護	14	4	18
就労	0	0	0
その他	1	1	2
合計	15	5	20

(6) 援護市町村区分

	男性	女性	合計
船橋市	13	5	18
市川市	1	0	1
千葉市	1	0	1
合計	15	5	20

4. 保護者の状況

	男性	女性	合計
親	10	2	12
兄弟	1	2	3
その他	1	0	1
なし	3	1	4
合計	15	5	20

5. 職員研修について

ア. 法人内事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
合同研修会	支援職	4. 1	3名	辞令交付式記念講演
合同研修会	支援職	9. 26	3名	
合同研修会	支援職	11. 28	3名	
合同研修会	支援職	1. 30	3名	

イ. 外部研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
グループホーム等での虐待防止について	支援職	9. 9	3名	
障害者差別解消法ってななに	支援職	11. 7	2名	
千葉県 GH 大会	支援職	1. 24	1名	
千葉県 GH 職員研修会	支援職	2. 2	1名	

6. 事故の発生について \*ヒヤリハットを除く

NO	発生日月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考
1	H.28.3.3	男性利用者、電動ポットのお湯を捨てようとして、危険に感じた職員と双方でポットに手をし てしまい、男性入居者の太もも にお湯がかかる。翌日、通院。	付き添い・見守りの強化	有	

平成27年度  
社会福祉法人さざんか会  
事業報告(統一版)

事業所名〔 野の花 〕

## 1. 平成27年度事業活動重点事項及び成果

### (1)新設にあたり

H27年9月1日、東庄の笹川の地に新設された「野の花」です。北総育成園、笹川なすな工房では第1番目のGHとなりました。法人では16番目のホームですが、東庄圏域の地域福祉の一翼を担うべく今後とも情報を発信していきたいと思えます。定員5名の所3名でスタートした野の花ですが、世話人も日頃から利用者さんに対して細やかに見てくれる面もありますが、日頃の世話人の思いをそれぞれ話し合う時間として「世話人会議」を定期的開催。日頃の勤務では世話人と利用者の狭い空間での時間であるので、世話人同士が意見を交換する場としてこの会議は大切な時間として活用しております。まだまだ未熟なホームではありますが他の法人のホーム等を見学させて頂いたり自分たちだけの考えに固執しないように取り組んでいく事が今後の課題でもあります。

### (2)食事提供について

開所当初より、宅配の給食サービスを利用。世話人は、食材の仕分けを含め初めての事に戸惑いを感じつつも、宅配業者に色々提案してもらい今ではスムーズにできるようになりました。食べる事は何よりの楽しみでもありますので、利用者さんが「美味しかったよ」と言ってくれる現状は世話人も日頃楽しくなるような雰囲気作りを始め努力してくれていると思えます。

### (3)安全面について

日中活動の場へ移動する際の交通安全に気を付ける事から始まり、入浴や掃除ありとあらゆる生活の場面で危険はあります。ヒヤリハットを活用し、業務日誌とは別にノートを用意して世話人の業務中での出来事など何気ない事も含めて書いてもらうようにしております。そこから直していけることも多くあり、私自身も未然に防げるように努めております。

### (4)健康管理について

9月に3名でスタートしたホームですが、大きな病気や事故もなく年度末を迎える事が出来ました。健康面で言うと、利用者のOさんですが、ホームに来た当初130kgあった体重がホームでの規則正しい生活を送る中で半年で20kgの減量に成功しました。しかし、次年度を迎えるに当たり日頃の健康観察を行い、利用者の体調不良や体調の変化に気づけるように細やかにさりげなく見ていきたいと思えます。

### (5)防災と設備について

高齢者、障害者問わずグループホームでの火災は新聞記事等で報道があり我々も他人事ではなく、自分の事として捉えていかなければなりません。自分たちで出来る事では、備蓄品を揃える事、有事に備えての避難訓練を繰り返し行う事で日頃の暮らしの中にも防災に対する意識を高めていく事を目的としていきます。

また、先日大地震が起きた熊本県では今なお避難所での暮らしを余儀なくされている方々がいます。5年前に起きた東日本大震災にしても然りです。「災いは忘れたころに起こる」とあるように常日頃から防災に対する意識は世話人、支援員共に持って仕事にあたりたいと思えます。

## 2. 職員体制と人材確保(常勤換算数)※小数点2位四捨五入

	管理者	サビ管等	支援員・世話 人・保育士等	看護師	調理員・栄養士	その他(運転士 等)	計
27年度当初							
男子	1	1	1 ( )	( )	( )	( )	2 ( 1 )
女子			3 ( )	( )	( )	( )	( 3 )
計	1	(1)	1 ( 4 )				2 (4)
年度中増減	0	0	0				0
男子			( )	( )	( )	( )	( )
女子			( )	( )	( )	( )	( )
計	1	1	1				2
28年度当初	1	1	1 ( 4 )	( )	( )	( )	( )

\*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を( )内に別記する。

## 3. 施設等利用者の状況

### (1)利用契約者

利用事業名	野の花			計
定員	5			5
27年度当初契約者数	3			3
年度内新規契約者数	1			1
年度内解約者数	0			0
年度末契約者数	1			1

### (2)利用率

利用事業名	野の花			計
年間延契約者数	3			3
年間開所日数	621			621
年間延利用者数	600			600
利用率	96.6%			96.6%

## (3)利用者の年齢区分(平成27年9月1日時点)

年齢区分	20才未満	21～25	26～30	31～35	36～40	41～45
男子	0	0	1	0	0	1
女子	0	0	0	0	0	0
計	0	0	1	0	0	1
構成比率	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%

46～50	51～55	56～60	61～65	65歳以上	計	平均年齢
0	0	1	0	0	3	43歳
0	0	0	0	0	0	
0	0	1	0	0	3	43歳
0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	100%	

## (4)利用者の障害程度(支援)区分(平成27年9月1日時点)

事業名( 共同生活援助 )

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男子	1	1	1	0	3	4
女子	0	0	0	0	0	
計	1	1	1	0	3	
構成比率	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	100%	

## (5)援護市町村区分

市町村区分	船橋市	市川市・習志野市・鎌ヶ谷市・八千代市	東庄町・銚子市・香取市・旭市	その他		計
				県内	県外	
男子			2		1	3
						100%

#### 4. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	1	0	1	1	0	0	0	3
女子利用者	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	0	1	1	0	0	0	3
平均年齢	55		80	62				
最高年齢	58		80	62				

#### 5. 職員研修について

##### ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考

##### イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
世話人・生活支援員等対象研修	支援員 世話人	27年11月10日	1人	
千葉県虐待防止・権利擁護専門研修	支援員	28年1月26日	1人	
グループホーム千葉県大会	支援員 世話人	28年1月24日	2人	

#### 6. 事故の発生について \*ヒヤリハットを除く

NO	発生日月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考
		今年度事故の報告は無し			